

# MR02-K02 観測航海の概要

## 観測航海概要

トライトンブイ	: 設置 8ヶ所
トライトンブイ	: 回収 8ヶ所
トライトンブイ	: 点検 1ヶ所
ADCP中層ブイ	: 設置 1ヶ所
ADCP中層ブイ	: 回収 1ヶ所
セディメント係留	: 設置 1ヶ所
セディメント係留	: 回収 1ヶ所
CTD	: 25キャスト
XCTD	: 30キャスト
海上気象観測	: 連続
船舶搭載ADCP	: 連続
表層水温塩分	: 連続

その他の観測も、順調に行った。詳細は、クルーズレポートを参照。

## 観測航海時の海況:

このMR02-K02航海は、2002年に発生しかかっているエル・ニーニョ現象の初期の段階で行われた航海である。TAO/TRITONブイアレーによるデータからは、2001年の12月に強い西風が東経156度付近に発生していることを示しており、この西風に対する海洋の応答として、力学高度からは日付変更線付近にエル・ニーニョ発生時に特徴的に見られる赤道ケルビン波が正のアノマリー(偏差)としてみられた。このアノマリーは、正の海面水温偏差を伴って東進し、暖水プールの東進として観測された。西太平洋におけるトライトンブイは、今回発生したエル・ニーニョの西太平洋における詳細な情報を提供し、気候予測に役立っている。

この航海中、東経156度に沿った海面水温は、29度以上を示し、水温および塩分の鉛直断面からは、ラ・ニーニャ時に赤道付近に見られる湧昇は見られなかった。船舶搭載ADCPによる表層の海流系も赤道付近において通常とは逆の東向きの流れを示し、観測された海上風も西風が卓越していた。これらの状況は、暖水プールが既に東側に移動してきたことを示唆する。同時に、観測期間中はしばしば激しい降雨を観測し、大気の大気対流が活発であることを示した。そのため、海面塩分は低い値を示した。